



「型」と聞くと、没個性のネガティブな印象を持つかもしれません。しかし、新しさの創作や創出には欠かせない認識技術であることがわかつてきました。「型」の働きを見直し、建築やまち関連の分野において研究と実践に取り組んでいます。

略歴

2000年より個人事務所において設計実務に携わり、2005年から5年間東京工業大学において、建築／公共空間のデザイン、特に「アカギューラーデザイン」に関する研究に従事した。その後、2010年に日本工業大学建築学科に着任し、現在は関東地域の特徴的なまち並みの型や、住宅地と建物の関わりをライフスタイルや暮らしから見直す研究に取り組んでいる。

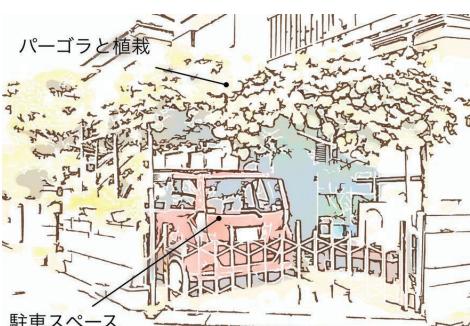
所属学会・受賞歴

所属学会：
日本建築学会

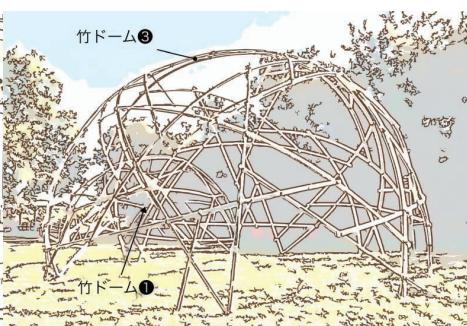
受賞歴：
グッドデザイン賞2007,2013
日本建築学会作品選集新人賞

研究紹介**「型」を用いた建築・まちの創作に関する研究と実践**

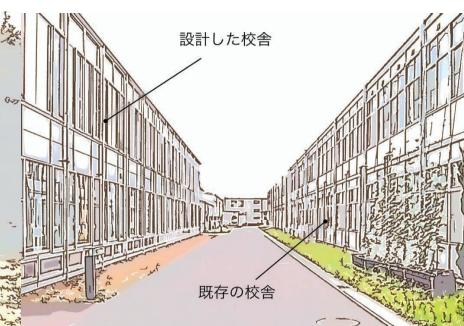
家具から建築や住宅、まち並みまでの「型」は教科書にあるようなあらかじめ決められたものではありません。いくつかの事例がある、そのあいだの類似性、共通性を見出すことができれば、展開が可能になる創作のツールです。このシンプルな法則が、現代のマチを理解して歴史や未来に接続し、建築の構法的な展開を支え、新たな構築環境を生み出しています。もっと言うと、私たちの共通理解をつくることにも大きく関わっています。この様々な水準にみられる「型」、つまり共通理解、ひいては公共的な側面を最大限にいかして、その地域らしいまち並みのポートフォリオの作成、コミュニティでの協働からワークショップ、製作・創作活動における協働の手法化、実践としての創作や発展的な技術提案までの成果が期待できます。



生きられた駐車スペースの一類型
まち並みをつくる様々なモノの型に着目し、その働きを研究しています



竹ドームにおける型の展開
同じ接合方法を用いて大きさや部材数を最適化し、発展させました



校舎の顔の類似型がつくる応答の景観
既存の校舎の顔に、新校舎の顔を応答させ、「校舎並み」をつくりました

共同研究・活動の事例**宮城県石巻市雄勝町での活動：**

・被災集落の暮らし伝承環境への整備協力

埼玉県宮代町・杉戸町周辺における調査・研究と実践：

・水との関わりからみた宮代町の風景の変遷（調査）
・水田かんがい用揚水ポンプ小屋の建ち方（調査）
・農業用水路と住宅の関空間の重層性（研究）
・外壁の縁取り表現からみた立面タイプの創出（研究）
・山車蔵の設計（実践）

主な論文発表**都市「アカギューラー建築」の研究：**

・自動車SSの用途変更事例における空間特性の変質
「キストマニング」の研究：
・新聞記事の「建築」を含む見出しにおける共起語の変遷
住宅作品の研究：
・青空階段のみられる戸建住宅作品の構え
・住宅作品におけるシーケンスからみた出入り空間の構成
・住宅作品における家具配列の建築部位による分節
・住宅作品における室内の要素と余白のレイアウト